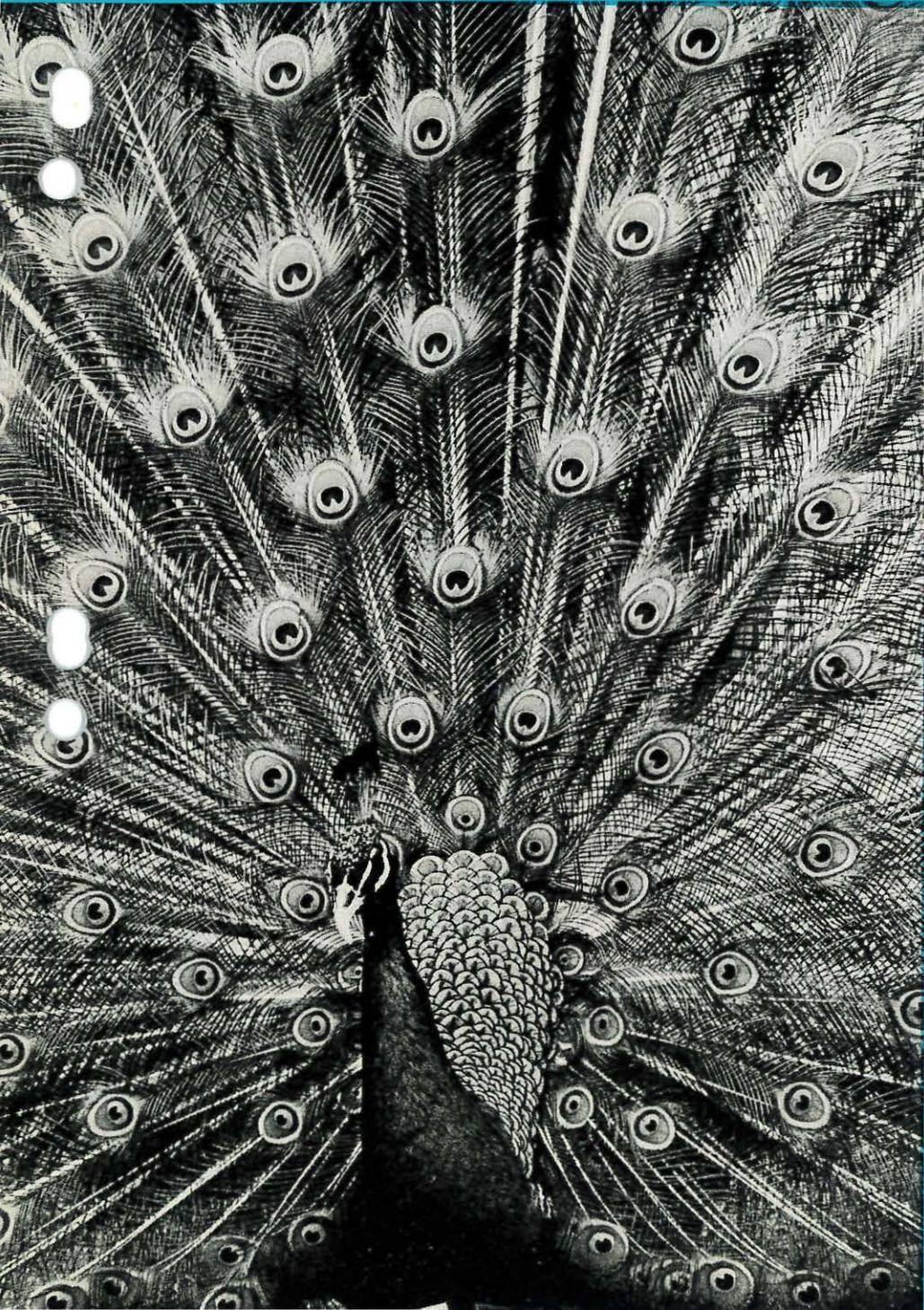


# なきごえ



1969

6

大阪市  
天王寺動物園協会

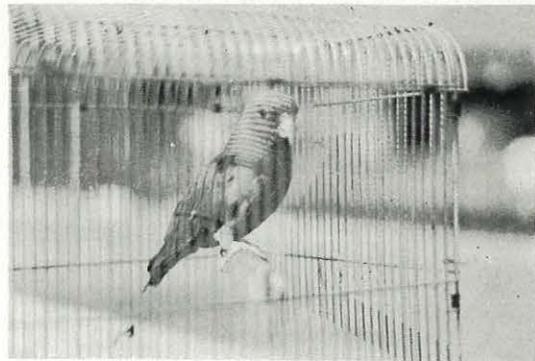
ズアオウチワインコ

黒田長礼先生の著書世界のオームとインコ (P 367~376) に詳しく述べられています。ウチワインコの仲間は世界でも珍しいインコとされています。

中でも本園に展示されているズアオウチワインコは非常に珍らしく珍稀種とされています。

ウチワインコの仲間の特徴は中央の尾羽の1対が著しく伸びていることで、この羽には両弁がなく先端にのみうちわのような羽弁を残しているのがウチワインコと呼ばれるわけで、下記のように大別されています。

- 1) ミドリウチワ
- 2) ズアオウチワ  
ズアオウチワ、ネグロスズアオ、ヒガシズアオ、オオズアオ、ミンドロズアオ、アボサンウチワ、キバラウチワ、アオウチワ
- 3) ズアカウチワ  
ズアカウチワ、キバラウチワ、ズルズアカウチワ
- 4) ウチワインコ  
ウチワインコ



写真は本園に展示されているズアオウチワインコです。同属の中では、大型の方で翼長は 144cm あります。

体全体は体黄緑色で下面はうすくなっています。頭上から後頭部にかけて、その名の通り、鮮明な青色を帯びていて尾の先端に本種のトレードマークである1対の枝の長いうちわ状の青黒い羽を備えています。

この鳥は高原地帯の森林の上を小群で敏速に飛び交いつつ一般のインコより甲高いそして丸味のあるすんだ声で鳴き叫びます。

フィリピンの Sulu 島にて習性を観察しつつ6ヶ月も滞在してこの鳥を追っかけたが、たった1羽捕えたのみ (Guillemard 1885) と云うのですから如何にこの鳥が敏速で捕獲しにくいものであるかが分かります。

尚本書には1962年と記されていますから、戦

前にフィリピンから1羽輸入され小林重三伯宅に飼われたのが本邦における唯一の記録とされています。

又年代は分かりませんが海外では英国でジョンストン夫人が一度輸入したと記されている程ですから、この種はよくよくの珍稀種と云うべきでしょう。

尾の先端に長い枝のうちわのような羽が2本生えているだけで、とりたてて変わったところのないこのインコを今更乍ら観察しなおしました。

非常に敏速とされるだけあって止り札や金網をつたって歩く足の運びが軽快で体つきも何となくスマートさが感じられます。

高原の森林の上に好んで生息するこの鳥は非常に暑気に弱いようです。今年4月、急激に気温が上昇した馬鹿陽気の気温が続きましたとき、立毛し食欲が急に減退しましたので大変あわてました。

餌は一般のオームインコと全く同様で、ヒマワリの種、麻の実を主に与えています。

担当者ですが、鳥籠を掃除したり、餌をやるとき、とてもすなお

で、一般のインコのようにギャーギャーと警戒的な声を出すようなことは全くなく、新しい水や新しい餌に取り替えると、とてもうれしそうに止り木の上で羽を動かし頭を軽く上下にしてホーッホーッと云う声を出すそうです。

松岡 恵爾

なきごえ6月号もくじ

動物の紹介(ズアオウチワインコ)..... 2  
 動物園の見方見せ方(Ⅲ)..... 3  
 動物園グラフ..... 4. 5  
 ペットを訪ねて(ヘビの赤ちゃん誕生(6))..... 6  
 動物園ニュース..... 7

▲アシカの池に来る。水中生活に適応して自在に泳ぎまわる。手足がひれ状になっていてスマートな流線形である。ぶかっような人間が足にフリップパー(水かき)をつけて潜る姿と比較にならぬがここで比べてみたいのは解剖学上の相同器官である。サルや人の手はつかみ、コウモリは指が伸びて翼となって飛び、モグラは穴を掘るためのシャベルとなり、アシカやクジラは泳ぐためのひれとなっているが、その構造は1本の上腕骨が2本の下腕骨に、次に腕関節があって5本の指につながるという基本的には全く同じものから各々特殊化したことが解る。更に魚類の胸びれが両生類、爬虫類の前肢に、腹びれが後肢に進化したものであり魚から鳥や獣も最後に進化したもので人魚の正体も理論的に考えられる。ジュゴンやマナティを持ち出すまでもなくアシカを見ながら生物が海から誕生したことも思い出させてみるがよい。

▲サルのならぶアパートを見る。所変れば品変る。南米のオマキザルからアフリカのマントヒヒ、マンドリル、ミドリザル、サイクスザル、インドのアカゲザル、シシオザル、ボンネットザル、マレーシアのカニクイザル、ブタオザル、セレベスのクロザルやタイワンザル、ニホンザルがいる。誰かに似ているし誰でも何ザルかに似ている。手足の長短は樹上生活と地上生活の割合で変り、尾の長さは熱帯から温帯へ移動して短くなる。雌雄の性的特徴は体の大きさや独特のマントヒヒやマンドリルで見られる。個々の特徴は比較して解り又相互の共通点を見出して分類される。霊長類には200種もあり、ツパイからキツネザル、メガネザル、オマキザル(広鼻猿)、オナガザル(狹鼻猿)、その上に類人猿(ヒトニザル)科と人科がある。簡単な系統樹の図表でもあると一目でサルが私たちと同じなかまであることを確認させるによいと思う。北園のチンパンジーやゴリラ、オランウータンに直面するとそれらの動作

や表情が理屈なしに同類であることが実感できる。サルが人になったのではなくサルも人も同じ系統の近縁種であるための親しみがわいてくる。

私たちが霊長類の一種でかつては同じ先祖から出たということが決して人間を軽蔑する理由にはならない。むしろより下等なものから出発して神業に近い人類の文化を勝ち得た過去の人類の残した努力の蓄積に対して敬意と誇りを私は感じる。

大脳の発達には2足歩行手の使用に由来するが最初の原因は樹上生活である。テナガザルの活発な枝渡り運動を目の当り見ていると、昔懐かしい楽しさで満たされる。ゆりかごやブランコの快感は誰しも味ってよく知っている。テナガザルは最も手が長くなり、樹間を手で渡り歩くものとなったが人間はその反対に地上を足で歩くアシナガザルになっているわけである。

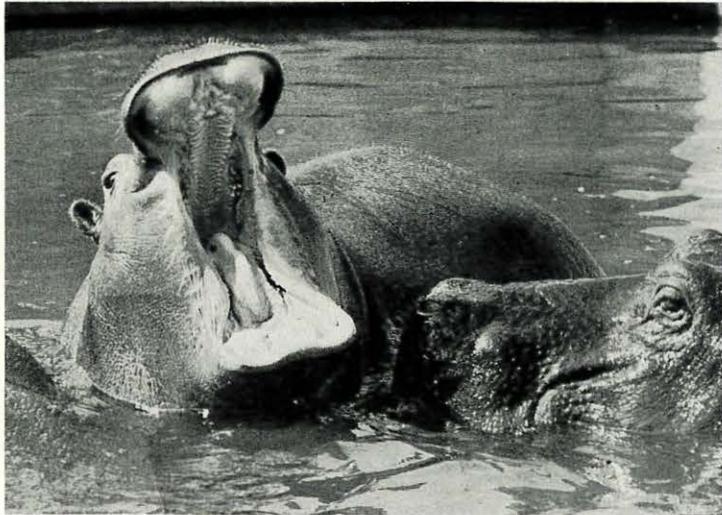
▲ともあれ動物園でサルに人気のあるのは私たちに似ていることと、たえず動きがあるからである。元来動物とは動く物と書き食物を取るために発達した特性で静止しているものより動いているものに私たちは本能的な注意を払わずにはいられない。その理由は動いているものは生きている、それは敵であるか獲物であるか?どちらにしても注意を怠れば食うか食われるか、命がけの問題になるからである。

といっても動物園の動物が何時も動きまわっているわけではない。休息や寝姿も夏と冬で違い種類によって千変万化甚だ興味のあるものであるが強いて刺激して起すようないたづらをしてはいけません。ライオンやトラ等空腹の時は大抵昼寝している。無用の運動をしないのはエネルギー経済の原則を心得ているからである。動物の前でラジオをかけたり大声を出したり活発な動作をしてはいけませんと念入りに外国の動物園では動物の平和を乱して興奮させぬよう注意している。

寝屋川市池田  
 吉田平七郎  
 筆者……おもちゃの動物園長

# 動物園グラフ

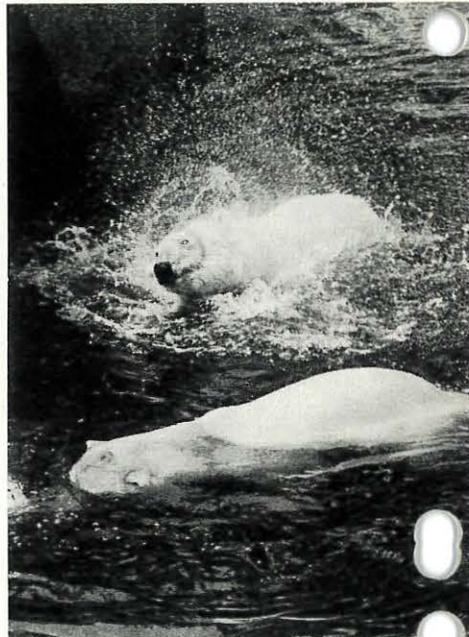
早くも暑い夏がやってきました。  
動物たちには、それぞれのプールに飛びこんで、暑さをしのいでいます。



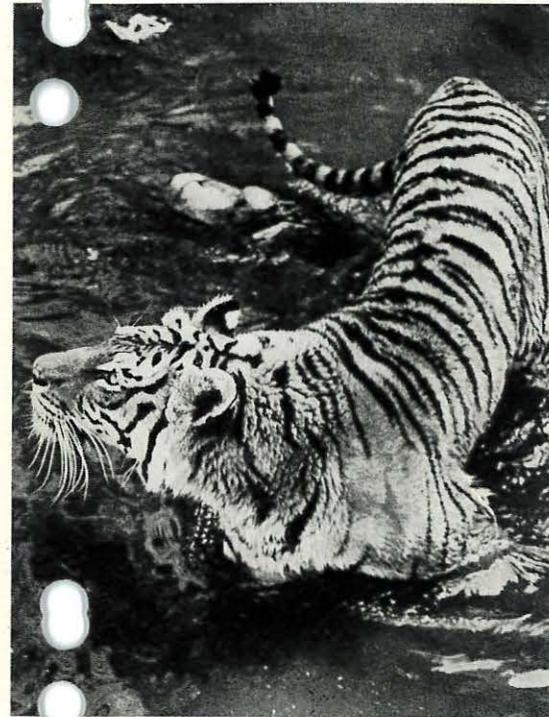
↑カバ  
もちろん水の中が、カバの安住地ですから暑い夏も、大歓迎



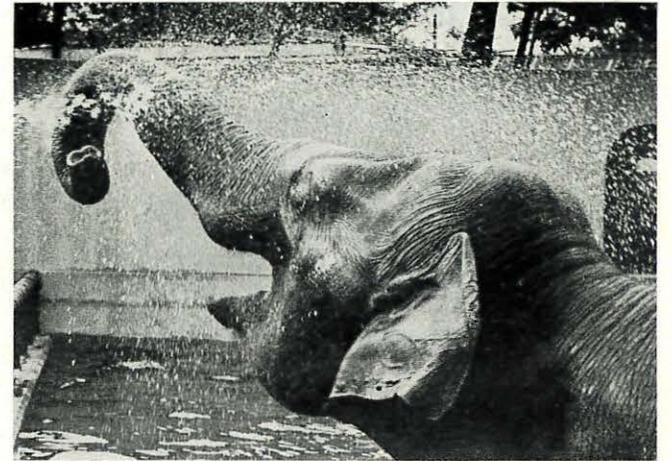
↑エゾシカ  
たまりかねてプールに入りました。北海道はもう少し涼しかったなあ、



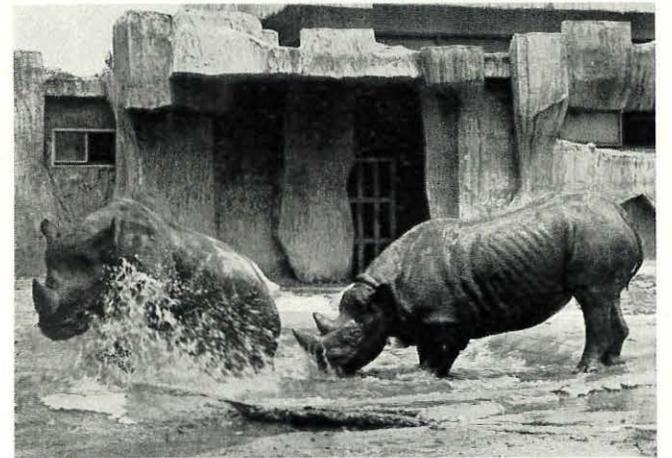
↑ホッキョクグマ  
日本のむし暑い夏は大嫌い。毎日生まれた故郷の氷の海を思い出してはプールに飛び込み水しぶきをあげています。



↑トラ  
水浴は大好き。  
ライオンなどより泳ぎも上手です。



↑ゾウ  
プールに飛びこんで鼻から水を吹き出しているのがゾウの春子さん。体が黒いので暑がりやです。



↑サイ  
水しぶきをあげて追いかけて。夏が大好きアフリカの草原がなつかしいなあ、

## 4・5月動物園日記

- 4月5日 兵庫県豊岡のコウノトリの卵の人工ふ化を依頼され、電気ふ卵器に入れました。
- 13 ニホンザルが1頭出産しました。
- 21 インドクロカモシカが1頭出産しました。
- 22 フラミンゴは今後夜間も放飼することになりました。
- 23 カンガルーの赤ちゃんが生まれていましたが、この日初めて袋より顔を出したのが見られました。
- 25 シュバシコウは今年は5巣で産卵をしています。

- 26 サルアパート、キリン舎などの塗装や、補修工事がはじまりました。
- 26 ブタが2頭寄附されて入園しました。
- 29 シュバンコウ（従来からふ化していた番）が3羽のひなをかえました。
- 5月5日 ゾウの目方を計る会がゾウ舎内で行われました。ゾウユリ子さんは3140kgでしたが春子さんははかりが恐いのかどうしても乗らず計れませんでした。昨年が3.5トンでいずれも3トンをこす体に成長しました。この連休は上天気で入園者がワンサとおしよせ大変混

- 雑しました。
- 6 ペンギン池によし張りをして夏の準備をはじめました。
- トゲガメ5頭が入園しました。
- 7 ゴリラのめすが下痢をしていますので治療に専念しています。
- 12 インドクロカモシカが生まれました。
- 14 老人クラブから預っていたこぶはくちょう1羽が直腸がつまって死にました。
- 16 下痢の続いていたゴリラもすっかりよくなりました。

- 18 マントヒヒの赤ちゃんが生まれましたが、親が乳を与えませんので、人工哺育することにしました。
- 20 キングペンギンが産卵しました。はくちょうが6羽ふ化しました。
- 24 みどりざる1頭出産しました。
- 29 動物園の事務所が新築されましたので、移転しました。
- 31 恒例のめんようの毛刈りを行いました。今年は8頭をかりました。毎年梅雨前に刈ってやることにしています。

# ペットを訪ねて

## 「ヘビの赤ちゃん誕生」(6)

大阪府守口市梅園町56

伊丹啓祐さん

(3月号から続く)

脱皮について

脱皮のことは前にちょっとふれましたが、生れた子ヘビは長さ10センチから15センチ位、約2週間位で第1回の脱皮をします。軽く食事をとってからまた、次の脱皮に入ります。即ち1か月に2回弱の割です。皮を脱ぐ毎に目に見えて成長度を高めます。大きなヘビですと脱皮前には体の色が変わりますのですぐに判るのですが、子ヘビではウツカリしますと見落します。生後1カ月位の子ヘビでしたら、5~6月はひんぱんに脱皮します。大きくなるにつれてこの回数は少なくなります。いづれも脱皮前は食事をしませんからそのおつもりで……。

なお、冬でも暖房をしてあれば脱皮します。そこで食事をしないからといってムリやりに押し込む、いわゆる「強制給餌」は絶対に行ってはなりません。必ずといってよい位、死にます。又、脱皮は、大体自力でやりますが、中には調子が悪くきれいに脱げないものもおりますから、こんな時にはこの脱皮を手伝ってやります。すなわち、目の白濁がとれてから5日位して表皮がたるみ、脱げかかっているのにスッキリしない時は、夏は水、冬はぬるま湯に彼の胴体をしばらく浸しますと、表皮がほころびてきますから、手で静かにこずりますときれいにむけます。口や眼は、よく注意して目玉に傷のつかないようにします。これらの時、ヘビは驚いて暴れますが、決してギョッと握ってはいけません。

以上で大体の事は述べてきましたのでこれをまとめますと、

ヘビの飼育についての結論

1. 相手が無口、無表情、そのくせいたって神経質でおまけに非常にカワイイ動物ときていますので飼育には細心の注意と最大の愛情を必要とします。
2. 飼育箱の中は常に清潔にして、清水を絶やさぬこと。

3. 食欲のない時は、先ず脱皮か病気か見定めること。
4. 強制給餌は絶対にしないこと。
5. 飼育箱の工作に注意して逃さないようにすること。  
日本人はヘビの嫌いな者が多く、しかも彼らを見れば理由もなく殺す……、又、子供は案外残酷性を帯びているので見つければ命はないものとみてよろしい。
6. 子ヘビの飼育はとても難しいのでなるべくならば人の来ない、そして湿気のある場所へ放してやって下さい。

これからヘビを飼われる方へ

とかく、日本人はマニアになり易く、ガンマニア、切手マニア、古仏マニアなどなど、マニアが昂じてついつい、重要文化財を盗んだり、人を射ったり、色々犯罪を起しがちです。ヘビの飼育もマニアにならないようにすることです。と申すのは、いくら種類を集めてみたとして所詮、ヘビはヘビ、よしや外国産の10万円、20万円とするヘビだと別だとうという事はありません。又、アチラ物は案外弱く、それにたくさん飼いますと、大便の世話や餌が大変です。マウスにしてもそう簡単に手に入りませんし、1匹50円もしますから餌としてはかなり高い方です。そこで、一般の方々でしたら、山かがしの2番もあれば十分と思います。餌も生きたものを与えなくともよく、人にも馴れやすく、又、関東、関西では模様や色合いも違ったり、眼は丸くて清くて愛らしく、飼うなら山かがしをあえておすすめする次第です。毒ヘビは飼わない方が無難です。万一、咬まれますと、命がありませんし、逃げては他人様に迷惑をかけるからネ……。つまり、マニアになるなかれということです。 おわり

(中川道朗)

### 表紙の写真説明

「インドクジャク」

2月頃から7月頃まで長い尾(上尾筒)を広げてみせてディスプレイします。お客さんのほとんどは鳥といえばクジャクというぐらい衰えない人気があります。

# 動物園ニュース

## ◎マントヒヒの人工哺育



マントヒヒの赤ちゃんが5月18日に生まれましたが、お母さんヒヒがお乳を与えません。このお母さんヒヒは昨年も出産しましたが、やはり育児に失敗しています。そこで、直ちに赤ちゃんを親から離して人工哺育することに決めました。哺育箱に入れられ2時間ごとにミルクを与えられ、すくすく大きくなっています。めすの赤ちゃんですが、哺乳ビンをしっかりかかえて大変かわいいですね。

## ◎みどりざるの赤ちゃん誕生



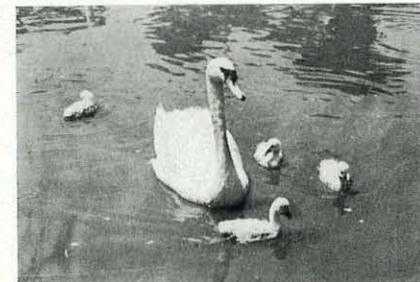
5月24日にうまれました。1昨年に生まれたのは大きくなっています。昨年は死産でした。このさるは、映画、「サハリ」で大量に捕獲される場面がありご存知の方も多いたと思いますが、アフリカの灌木のある草原に群れをなしています。この赤ちゃんも今はかなり大きくなりました。

## ◎こぶはくちょうのひな誕生

5月20日こぶはくちょうのひなが6羽ふ化しましたが、数日後惜しくも2羽が死んでしまいました。

このこぶはくちょうは大阪の老人クラブが大阪市に寄附したものです。

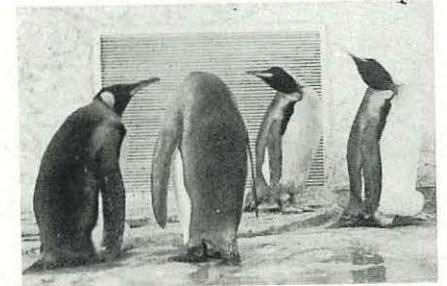
現在、4羽がすくすく育っています。



## ◎キングペンギンの産卵

5月20日と6月3日にそれぞれ産卵しました。今年は約1カ月も早い産卵です。昨年にほとんどふ化直前までいきながら卵がわけてしまい失敗しています。

うまくいくと7月上旬にひな鳥がうまれることとなります。これまで、長崎水族館で3羽がふ化して育って



ます。現在、2番の夫婦が交替で卵をあたためています。

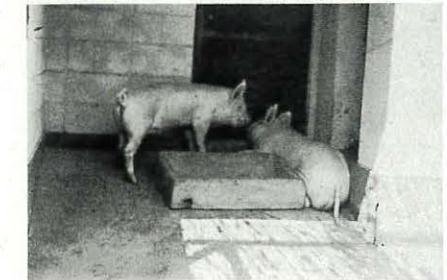
## ◎ムシ歯予防デーにチンパも一役

6月4日はムシ歯予防デーですが、園内では大阪府の歯科医師会が入園者に無料ムシ歯の検診を行いました。これに、チンパンジーのヨー子ちゃんもしんみょうに大きな口をあけて、診てもらいました。続いて、歯ぶらしの正しいつかいかたも、よい子たちと一緒にならいました。



## ◎ブタがお目見え

都会の子供たちはブタ、ウシ、ウマなど畜産に役だっている動物を絵本でしか見ることができません。ウマは動物園にいるが、どうしてもブタやウシを実物で見たいという声動物園によせられていました。ちょうど、その声を聞いた市民の方が、ブタの寄附を申し出られ、このほどブタのおすめすが入園しました。今、小獣舎のオーブンゲージにおさまっています。



ブタ、ブタと子供たちに大変人気があります

## 動物園協会だより

天王寺動物園協会は現在、正会員、賛助会員、特別会員の社団法人組織で運営されていますが、動物園の発展に寄与するために、せいぜい多くの方々が会員となって下さいませようお願いします。

なきこえ 昭和44年6月15日発行（毎月1回15日発行）第5巻第5号（通巻47号）

編集人 / 加藤寿雄 発行所 / 社団法人大阪市天王寺動物園協会

大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 771-0201

印刷所 / 株式会社 松村善進堂

定価 40円

